

「はじめは、どこかでだれかが悩んでいる身近な事でもあるので、世界に発信したいと考えて、みんなでいろいろ調べました。白石く



古賀優生くん

「タイトルを『僕はわからない』とした理由は、はじめをしている場面で、周りで笑っている人がいるけど、僕たちは笑わない!という気持ちみんな一緒だったので、決まりました。」

本日は、白石くんが考えたんだよね!と笑いが起きます。



白石虎吾くん

2月20日(木)に幸手中学校マルチメディア部に所属する、プレゼンター5人(中学2年生)にインタビュー。経験から得たもの…、たくさんあったようです。

## 自信へ

「セリフを覚えるのはよかったです。ですが、言葉に合わせた身体表現が難しかったです。」

指導された桑原先生から、子音の発音が弱くて聞きにくいとの指摘があり、第一声や、間合いを意識しながら話すように工夫したそうです。また、時間の許す限り台本を読んだり、こっそり家のお風呂で発声練習をする努力も…。

■**いざ、舞台へ**——

「超緊張です!膝がカタカタし

んが5分間のストーリーを考えましたが、先生や友達に直されていきました(笑)。」

先生や友達のサポートがありストーリーは無事に完成しました。

「練習は、冬休みを返上し体育館で行いました。インフルエンザも流行る季節なので、パートを交代しながら練習しました。みんな楽しくできたのでよかったです。」

楽しく練習した様子が伝わってきます。



柿沼真羽さん

「終わってみると5分間はあっという間でしたが、とっても楽しかったです。反省点もありますが、ほぼ満点です。本当にこのメンバーでよかったと思います。」

発表後の様子を、振り返ります。



石川拓海くん

■**発表を終えて**——

「幸手中学校とコールされてからは、自然と緊張はなくなり、しっかりやるぞ!堂々とやるぞ!という気持ちになりました。」

会場を見ても、知らない人ばかりだったので、逆によかったと…。

「最後にみんなで言った『はじめを止められるのは僕たちです!』も、力強く締めたいということから決まりました。これは、はじめ問題の一番近い場所にいる児童や生徒が、みんなで止めるんだ!という強い思いを込めました。」

5人の同じ思いを、世界に発信したんですね。



この経験をステップに、色々なことにチャレンジします!



平山心結さん

「表彰式は帰り支度をして参加していましたが、『審査員特別賞! 幸手市立幸手中学校!』と呼ばれ、突然すぎてビックリしてみんな慌てていました(笑)。」

発表した5人は、「たくさん練習して、みんなで協力しながら大舞台で発表したこと、そして賞をいただけたことで自信に繋がりました!」と話してくれました。



## 令和元年度 第3回全国プレゼンテーションコンクール in 羽生 幸手中学校が審査員特別賞を受賞

1月18日(土)に、羽生市産業文化ホールで開催された「第3回全国プレゼンテーションコンクール in 羽生」に、幸手市から日本語の部で、吉田小・行幸小・さかえ小・幸手中が参加しました。

これは、1867(慶応3)年のパリ万国博覧会で活躍した羽生市出身で、プレゼンのパイオニアでもある清水卯三郎氏を顕彰し、児童・生徒のプレゼンテーション能力の育成を図ることを目的に開催されています。

発表時間は5分以内。日本語の部・外国語の部・VTR日本語の部・VTR外国語の部の四部門があり、内容・構成力・口頭発表力・説得力の総合点(100点)で審査されます。

今年は「世界へのメッセージ」をテーマに、北は北海道から南は沖縄県、VTR参加として香港・台北・フィリピンから総勢34校が参加し、世界へのアプローチを繰り広げました。

「僕はわからない 自分の気持ちに向き合って!」と題した幸手中学校のプレゼン。軽い気持ちでいじる(冗談を言う)人と周りで笑う人がいて、笑われた人は大ケガを負ったのと同じぐらい心が傷ついていること、また、子ども社会のいじめ問題を大人社会に置き換えた場合の問題について堂々と発表し、最後に「はじめを止められるのは僕たちです!」と力強く締めくくりました。

観客席から発表を見守もった、幸手中学校校長 高野 治先生は

「これからの社会で必要とされるプレゼンテーション能力は、学んだことをアウトプットする力です。この場では、まさにその能力を全国レベルで競い合い、これからの社会を担う子どもたちの能力を開発していくものと思います。」

発表内容も、マルチメディア部が最近問題になっている身近な話題を、映像でわかりやすく、真に迫るスピーチで発表しました。

各学校が、地域の紹介や学校のよさなどをテーマに発表する中、『はじめ』に関するテーマで自分たちの考えを発表したのは、幸手中学校だけでした。

この受賞を機会にマルチメディア部の生徒だけでなく、市内の小・中学生がプレゼンテーション能力を高め、世界に向けて自分たちの考えをアウトプットできる能力を高めてほしい。

と話してくれました。